

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	県営亀井野ハイツ4号棟	階数	地上5F
建設地	神奈川県藤沢市亀井野3215外	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	135人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2021年3月1日
敷地面積	3,864㎡	作成者	株式会社タック都市開発研究所
建築面積	852㎡	確認日	2021年3月3日
延床面積	2,743㎡	確認者	株式会社タック都市開発研究所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.7**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.9

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.1

**LR のスコア = 3.7**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	団地内の移動を円滑に行うため、歩道の充実及び段差の解消を行う。団地内の他棟から集会所への動線が、外周歩道を通じて繋がりを、住民交流の場となる。緑地を住棟の周辺に配置し、また外周歩道を設け、緑地と住民との共生を図る。住棟については、5階建て住棟と集会所を併設させた1棟に集積。駐車場を住棟周辺に整備。住棟同士の南北の距離を広く配置し、日影に配慮するとともに、住民同士のプライバシーに配慮した計画とした。	<b>その他</b> 土工や土砂運搬により発生する粉塵については、飛散を防止するため、散水などの対策を講じる。また低騒音工法の採用や、低騒音型建設機械の使用を考慮し、周辺の生活環境に対する影響を最小限に止める。
<b>Q1 室内環境</b>	界壁のコンセントボックスの位置など遮音性能に影響するような欠点に配慮する。また居室の開口を大きくし光、風を積極的に取り入れるように配慮する。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 周囲にリストを設け、住民交流の場とする。緑地を住棟の周辺に配置し、また遊歩道を設け、近隣公園、緑地、住民との共生を図る。
<b>LR1 エネルギー</b>	潜熱回収型給湯器を採用しCO2の排出削減、省エネルギー化を図る。	<b>LR3 敷地外環境</b> 近隣や住棟と敷地境界よりの離隔距離を大きく取り、日照に配慮すると共に風向きの変化に対する影響などが無い様配慮する。
<b>Q2 サービス性能</b>	内装計画の段階でスイッチの細い位置から引戸等のスペースの有効利用に配慮する。また、設備配管等はコストと更新性、機能性のバランスに配慮した。	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	コストと更新性バランスに配慮しながら積極的に再生材などを使用しCO2排出削減を図る。また内装建材については有害物質を含まない材料を最大限採用した。造作材には県産材を採用し、積極的に木材を使用した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される